

福島県沖のトラフグ

令和3年10月22日
 福島県水産海洋研究センター



図1 底びき網で漁獲されたトラフグ

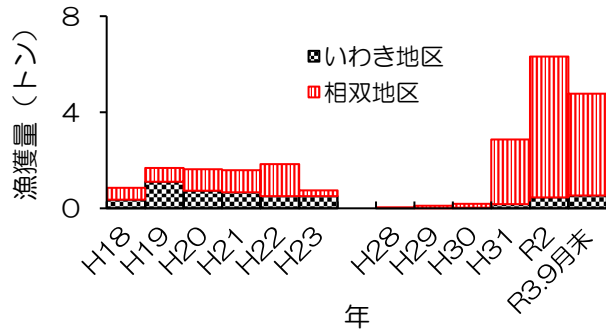


図2 トラフグ漁獲量の推移(R3年は速報値)

トラフグ *Takifugu rubripes* は北海道以南の日本沿岸から台湾まで広く分布¹⁾し、フグ類の中でも平均単価が高い重要な漁業対象種で、主に西日本を中心としてはえなわ漁業や底びき網漁業等で漁獲されています。重要な漁業資源であることから、神奈川県²⁾や千葉県³⁾、福岡県⁴⁾など、日本各地で種苗放流によるトラフグ資源増殖の試みがなされています。

福島県での漁獲量は、平成18～22年は0.9～1.8トンで推移しましたが、平成31～令和2年は2.9～6.3トンで推移しています（震災前はトラフグを「トラフグ」として集計していない漁業協同組合支所があり、平成23年以前の漁獲量は目安となります）（図2）。なお、令和3年9月末現在の漁獲量は4.8トンであり、昨年同期の5倍程度となっています（速報値）。

アカムツ（令和3年漁海況速報No.30参照）やタチウオ（令和3年漁海況速報No.34参照）と同様、近年漁獲量が増加傾向にある魚種であることから、当センターでは漁獲状況を注視していきます。

【引用文献】

- 1) 中坊徹次(2013) 日本産魚類検索 全種の同定第三版 II.p.1737
- 2) 桜井 繁, 一色竜也, 鈴木重則(2014) 神奈川県におけるトラフグ種苗放流効果について. 神奈川県水産技術センター研究報告, 7, 41-47.
- 3) 千葉県水産総合研究センター 漁海況旬報ちば No.2021-07
- 4) 宮内正幸, 的場達人, 松村靖治, 山本健也, 山口忠則, 大隈 斉(2014) 福岡湾に放流したトラフグ人工種苗の放流効果. 福岡県水産海洋技術センター研究報告, 24,